

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4392500049		
法人名	有限会社 ひまわり		
事業所名	認知症グループホームひまわり		
所在地	熊本県熊本市北区植木町山本886-1		
自己評価作成日	令和7年11月17日	評価結果市町村受理日	令和8年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/43/">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/43/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和7年12月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームひまわりでは「笑顔あふれる小さな家づくり」という基本理念のもと、年間目標に「一人一人が安らぎと潤いのある毎日を送れるように支援します。」という目標を掲げています。日々のケアに関しては、今までの生活習慣を大切に、利用者様お一人お一人に応じた個別の支援に努めています。毎日のレクリエーションでは、今日は何の日?というテーマで日付の確認から過去の出来事、季節の行事ごとなどについて話をしたり、回想法につながる様な取り組みを中心に日本の歳時記を楽しめるような行事も多く取り入れています。その他にも脳トレ・軽体操・上下肢を使ったゲームなど様々なレクを行っています。又、季節ごとに室内の装飾にも変化をつけ、施設内においても四季の移り変わりを感じられるように工夫しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

長閑な地域の中、目標として掲げるやすらぎと潤いのある暮らしの実現に向け、入居者個々の思いの実現に向き合い、登山の経験者には展望所からの眺め(阿蘇の外輪山)を支援し、慣習の継続による四季の楽しみや初詣として手作り鳥居や端午の節句に合わせた手作り八幡等により潤いのある日常へと繋げている。更に、壁面制作等職員の得意分野が住空間の彩りとして生かされ、“ちらし寿司 思い出す 母の味”とする入居者の書にホームのケア姿勢が表われ、希望による海鮮丼での昼食会や“サンマを食べる会”等に表出している。入居者個々のペースに合わせた丁寧なケアの実践と集団ケアが高齢化の中で笑顔を引き出し、入居者のお手伝いには「ありがとうございます」と感謝を表す等主体的な入居者の生活を見守り、温かく明るい雰囲気を出している。管理者を中心に意思疎通の良い関係とともに、自然体で根拠のあるケア姿勢が高齢化する入居者の生活を支えており、地域との交流に再始動されることが期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の年間目標を玄関と職員の目につく事務所の壁面に掲示し、理念の共有に取り組んでいる。採用時のオリエンテーションや施設内研修において、周知を行っている。	基本理念として“笑顔あふれす小さな家づくり”のもとに、職員で意見を出し合い「一人一人が安らぎと潤いのある毎日を送れるように支援します。」を目標に掲げ、個別ケアに努めている。入居者の生活歴を通じた個別ケアや会話から把握した事例をケアに反映させる等目標を入居者へのケアを通して明確に示し、広報誌やホームページにて発信している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が事業所近くの畑で野菜の収穫作業を手伝って交流を深めている。また、収穫された野菜を定期的に近所の方より提供して頂いている。	コロナ禍以前の様な地域との交流には至っていないが、農家のハウスの手伝いや野菜や花の差し入れ等昔ながらのお付き合いを行っている。異動図書館の利用や、他事業所からのボランティア訪問時には声を掛けられている。看護実習生の受入れは入居者の楽しみとして生かされている。	地域との交流促進に向けた工夫に期待したい。これまでの関わりのあった保育園や中学校等との関わりでの再始動に期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族に対して認知症への理解や、介助方法などの相談やアドバイスを行っている。認知症サポーター講座の講師として認知症についての啓発活動も実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。地域包括支援センター、民生委員、社会福祉協議会、家族代表の方に参加して頂き、活動報告や外部評価結果などの報告を行い、参加者の意見を活用し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	コロナ禍以降オンラインで開催する運営推進会議は、ホームの状況確認にまずは資料を郵送し、その状況を口頭で報告し、参加者（地域包括支援センター・社協・家族代表）との質疑応答をする機会としている。家族代表からの言葉については職員に伝達されている。	インフルエンザ等感染状況にもよるが、対面での開催やメンバー構成について再検討いただきたい。地域（自治会・老人会等）からの参加があれば、地域との関わりが増えることと思われる。また、回を重ねると形骸化しかねず、ホームの課題を話し合う等問題提起の場とされる事が期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には運営上の留意点やサービス提供などについて、市の担当者に連絡を取り、指導を仰いでいる。市職員の運営推進会議の出席は無い。	行政には報告書の提出時に家族への報告のタイミングへのアドバイスや運営上の質問等を行っている。入居者の経済的な面で、定期的なケアプランの提出や収入申請書の提出等により入居者を支えている。地域包括支援センターからは運営推進会議への参加時にホームの現状を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化に関する指針を整備し、施設内研修で職員への周知を行っている。定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束をしない支援の実現に取り組んでいる。	身体拘束ゼロを宣言を掲げ、法人の各事業所が参加する身体拘束化委員会により、問題が無いケアに関して注意し、職員へフィードバックし、ている。また、スピーチロックがないように職員同士が注意喚起している。転倒リスクの高い入居者に家族に説明した上でセンサーを使用しているが、介護計画書にも組み入れるよう期待される。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。業務会議においても職員の理解を深める取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権・自己決定の取り扱い等について各ケースごとにOJTを行っている。施設内研修において権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は利用者と家族との最初の共同作業であると考え、必要書類について十分に説明を行い、家族等からの質問にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において家族代表者に施設の運営と改善点や要望についての意見を頂いている。家族の意見は玄関にご意見箱を設置しており、面会時や近況報告を行う際にも聞く機会を作っている。	家族の面会時に直接意見や要望等が無いかを伺っているが“今のままで大丈夫”との声が多いとのことである。家族へは広報誌により情報を発信している。運営推進会議には家族代表の参加となっており、他の家族にも運営推進会議の状況を発信する機会があれば、更に忌憚の無い意見や提案等ケアサービスに生かされると思われ、検討いただきたい。	ホームでは様々なイベントに取り組みまれており、家族へも参加依頼により、家族同士の交流の機会としていただきたい。家族同士の交流の機会から家族会へと広がることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやケアカンファレンス時に、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。必要時には、個別面談の機会も設けるように取り組んでいる。	リーダーによる申し送り時の職員の意見や提案を管理者を通して施設長へ上申する体制としている。設備に関する事案として備品の点検依頼等が挙り、介護ベッドへの変更等に職員の提案を具体化している。管理者による個別面談や状況によっては施設長及び社長との面談も行われている。職員の都合による勤務態勢等連携を図ると共に、働きやすい環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員のワークライフバランスを把握し、勤務時間の調整など就労環境の整備に努めている。また、個別目標シートや個別評価を実施し、適切な評価を行い、やりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自身の研修計画を策定し、自己研鑽を図る取り組みを行っている。施設内研修は全体計画に基づいて実施している。介護福祉士実務者研修の受講の際には修学資金制度の活用を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護支援専門員連絡協議会に参加し、研修・交流会等を通じて、他事業所や民生委員と情報交換やネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、今困っていることや不安に思っていること、どのように生活していきたいかなど要望をしっかりと傾聴して、本人が安心した生活ができる様に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時、契約時に、家族の不安や要望等の思いをしっかりと傾聴し、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを把握できるように十分アセスメントを行い、様々な職種の職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行える様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から会話の機会を多く持ち、昔の事を教えてもらったりスタッフがわからない事を教えてもらったりしている。又、クッキングレクをした際は味見をして頂いたり、裁縫の際は適切な縫い方を教えて頂くような声掛けをしている。その他、入居者様の負担の無い範囲で洗濯物干し・畳み、新聞折り等、小さい事でも出来ることはお願いしたり、職員と一緒に行動などして、ささいな事でも一緒に喜んだり学んだり、支え合うもの同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来設された際や電話にて、施設での生活状況や解決すべき課題について報告・相談し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が暮らしていた地域へドライブにお連れしたり、お墓参りにお連れしたりしている。又、現地までお連れすることが出来ない場合はそこに関する情報や現在の状況をお伝えしたりしている。法人内の別事業所に奥様が入居されている方には、好きな時に電話でのやり取りが出来る様に援助したり、面会にお連れするなどして関係が途切れない様にしている。	自宅近くへのドライブ、墓参、法人の施設に入所した家族との面会等法人の持つ機能を発揮している。家族との年賀状のやり取り、編み物の他、そば打ちの体験や端午の節句に合わせた手作り八幡、花祭りの甘茶、玄關にお盆参りとして迎え火や送り火を用意したり、しめ縄作りや手作りの鳥居での初詣等職員の工夫により慣習や趣味などを継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はテーブルを囲んで、お互いの顔をみながら食事をしたりレクリエーション活動を行えるような環境を作っている。利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声をかけ橋渡し役に努めている。また仲の良い利用者を隣の席に誘導するなどして他利用者と会話ができる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる相談窓口となれる様に努めている。相談に対して活用できるサービスの内容について、提案を行う等の支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の思いやご家族の意向を聞いて、スタッフで話し合い、本人の思いに添った生活の実現に努めている。ご家族には面会時にご要望などが無いかをお聞きするようにしている。意思を伝えることが困難な方に関しては、ご家族に聞いたり本人本位になるよう想像しながら検討している。	生活歴からの把握や、入居者が直接職員へ申し出られる等話しやすい雰囲気を作っている。また、発語困難にはゆっくりした語りかけや職員から問いかけ表情や声のトーン等からの推察しや、難聴の入居者には耳もとでの話しかけ等、本人本位になるよう努めている。また、選択肢を投げかけながら本人本位になるよう努めている。言葉にはされなくても七夕短冊に“巨人優勝”と記した入居者にテレビでの野球観戦等様々な形で入居者の思いを把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には前任のケアマネージャー他関係者から引継ぎを受け、情報収集を行っている。また、本人、家族からこれまでの暮らしぶりについて情報をお聞きし、個別の記録に残しスタッフ全員で把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残して、現状の把握に努めている。本人のできる事とわかる事なるべく記録に残したり、スタッフ同士で話し、情報を共有出来る様にしている。6か月おきにはアセスメント・モニタリングも行い、有する能力や課題、生活への思いについての現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーと担当介護士を中心にモニタリングを行いケアプランの作成に反映させている。ケアの内容については、他職種での情報交換と検討を行い様々な意見を取り入れたケアプランを目指して作成している。	日々ケース記録にプランに沿って詳細に記録(入居者の言葉・発言等)、モニタリングにより変更の可否を見極め、変更や内かがあれば再作成している。日々職員の気になる入居者と状況等を聞き取りし、管理者が纏めケアマネージャーに挙げる体制として、新たなプランを作成している。状態変化や区便変更により見直し等現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関りの中で見えた本人の思いや発言・行動をできるだけそのまま個別記録に残し、職員間で情報を共有している。その中で生まれた気づきをスタッフ間で話し合い、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館から毎月1回は来所してもらい、本や紙芝居などを借りて日々のレクリエーションに活用したり、利用者が読書出来る様に支援している。ご家族への手紙を投函する際は、本人を連れて地域の郵便局へ出かける様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。希望が無い場合は、同意を得たうえで施設の協力医療の医師をかかりつけ医とし、2週間に1度は往診を受けている。主治医への状態報告や指示受けを確実にし、医療機関との関係づくりに努めている。認知症専門医、眼科の受診の対応も行っている。希望があれば訪問歯科も受けることが出来る様に支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、協力医療機関の場合は2週間毎の往診として受診結果は面会時や薬の変更など何かあればその都度報告している。他の医療機関を希望される際は、ホームや家族による受診としている。ボトルに入れたお茶が洗面台に用意し、起床時のお茶うがいを実施し、歯科受診については希望や必要時に協力医による訪問診療や希望するクリニックに家族が支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について介護職と看護職の連携に努め、看護職員が必要な助言や指示を行っている。夜間は看護職員がオンコールにて緊急時対応と健康管理について相談、助言を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や外来・病棟師長との情報交換を積極的に行い、利用者についての適切な処遇について話し合う機会を持つようにしている。退院が可能となった場合は出来るだけ早く受け入れが出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療については、契約時に家族に説明している。入居後、重度化される可能性が出てきたときに、再度、施設として出来る事と出来ない事の範囲について説明し、本人と家族の意向を確認した上で対応方針の共有を図っていている。地域の協力医と連携しながら出来る限りの対応を行っている。	入居時に重度化・終末期支援に関し説明し、ホームに出来ること、出来ないことを伝え、家族の納得が得られれば看取りまで支援を行うことを伝えている。体調の変化などそのような状態になられた場合、改めて家族と話し合い、家族の意向にもとづき、主治医との連携を図りながらホームで出来る最良の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。施設内研修にて緊急時対応についても学ぶ機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練と実施し、通報設備等を使用して夜間想定訓練を行っている。地元の消防団とも交流する機会を作り、協力体制を依頼している。	年2回、夜間を想定した消防訓練を実施している。3月の訓練では通報・初期消火・避難誘導訓練が行われている。地元消防団に協力を依頼している。BCP(業務継続計画)をもとに、熊本地震と同規模の地震を想定し、各事業所の対応能力の確認としてグループラインで情報を共有している。日々の安全チェックや通路には物を置かないとし、避難経路を確保している。食備蓄はチェックリストにより把握している。	今後も夜勤専従者との共有に努めていかれることを期待したい。また、コンセントの埃やプラグの曲がりなどについても定期的に確認されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシー掲示し、周知に努めている。施設内研修にて接遇や個人情報保護について学ぶ機会を作っている。スタッフ間でも話題が上がったときは、スタッフ全員の意見を聞きケアの見直しを行うように取り組んでいる。	入居者のプライバシーや尊厳の保持に関する姿勢を掲示し、周知徹底している、また個人情報について研修会などで学んでいる。呼称は基本的に苗字にさん付けで対応し、居室へ入る際はその方の部屋(家)としてノックや了承を得ることを共有している。身だしなみやおしゃれの支援として、職員は普段のかかりの中でその方の好みを把握し、起床時のブラッシングや定期的に訪問カット支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面ごとにできる限り本人に自己決定して頂くような声掛けを心がけており、すぐに回答が無い場合でも待つケアに努めている。利用者によっては選択しやすい様に、2択にして自己決定がしやすいようにしたり、わずかな表情の変化や声のトーン・仕草で意思表示されているのを注意深くキャッチ出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、出来るだけ入居者の意向や体調、その人のペースに合わせて支援している。レクの誘いも声掛けはするが、あまり乗り気で無い場合や他にしたい事がある場合はそちらを優先してもらい無理強いはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のヘアセットや整容は丁寧に行うようにしており、本人が心地よく毎日を過ごせるように心がけている。普段の会話でも本人の好みの服や髪型、どこに買い物に行っていたかなどをお聞きするなどして本人の好みを把握することにも努めている。ヘアカットに関しては訪問カットを利用しており、本人の好む髪形を要望としてお伝えしている。希望があればマニキュアを塗るなどおしゃれを楽しむ事が出来るよう援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人内の栄養管理部で作られたものを温めて提供している。毎食後感想をお聞きし、好評だったものや食べにくかったものなどについては栄養管理部に伝える様になっている。食材は季節の野菜を多く取り入れ、行事食を献立に取り入れたり、イベント時にはクッキングレクリエーションとして料理の下ごしらえや盛り付けなど出来る方には積極的にして頂いている。又、普段の食事の様子を観察し、箸・スプーン以外にも自助具のスプーンやかえし付きの皿を用意したりしている。	食事は主食のご飯のみホームで炊き、主・副菜な度の他、お粥や二度炊きご飯、キザミやペースト食など法人栄養管理部でつくられたものを提供している。食事前に職員が献立名の紹介し、食への意欲を引き出している。行事食や1日の赤飯、15日は季節に応じた変わりご飯の日が設けられている。パン食が苦手な方にはご飯へ変更し、身体状況により小おにぎりで提供している。また、クッキングの日を設け、誕生ケーキや刺身入りちらし(夏場以外)をはじめとして職員の工夫が入居者の楽しみに繋げている。入居者も下ごしらえや盛り付けなど出来ることに取り組みまれており、この年末にはそば打ちに挑戦されている。	“さんまを食べる会”のイベントでは、さんま釣りゲームを楽しんだ後食事に焼きさんまが提供されるなど、広報誌からもホームの工夫が窺えた。入居者から聞かれた感想や残菜の状況、要望など栄養管理部に報告されている。今後は検食者を設け感想や入居者の代弁者としてのコメントなどを報告することで、更に今後の食支援に生かされるものと思われ、検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、記録に残し、必要な栄養・水分の確保が出来る様に支援している。特に水分摂取量の管理が必要な利用者に対しては細かく摂取量の確認を行ったりイオンサポートゼリーや本人が好まれる飲み物などを提供したりしている。食事摂取量が極端に少ない方に関しては栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。仕上げが必要な方には、一部介助、及び全介助にて仕上げを行っている。うがいが困難な方についてはお茶うがい、口腔用スポンジや口腔用ウェットティッシュを使用し清潔の保持に努めている。起床時にはお茶でのうがいも実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう、トイレ誘導や声かけを行うなどしている。夜間もPTイレを設置し出来るだけトイレに座れるような環境を作っている。入院時におむつを使用されていた方についても出来るだけトイレ誘導し、徐々にトイレでの排泄に戻せるように努めた。	排泄チェック表によりパターンを把握し、日中は基本的にトイレでの排せつを声掛け・誘導、自立の継続ができるように支援している。居室にトイレが備わっており、それぞれのペースで排泄ができています。排せつ用品も個々に応じて支援しており、日中は布パンツの方も夜間は転倒防止の心配からオムツを使用される方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や乳製品の飲み物をお出しし、普段の食事には食物繊維の多い芋類や野菜、海藻類を多く取り入れている。体調に合わせて適度な運動を一日の活動の中に取り入れるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおまかな入浴日は決めているが、本人の体調や希望によって曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。車イスの方も専用のシャワーチェアにてシャワー浴(座・シャワー)を実施している。入浴が体力的に本人の負担になる様な場合は清拭対応も行っている。しょうぶ湯やゆず湯など季節の行事にちなんだ入浴も行っている。	入居者の体力的な負担を考慮し、週2回午前を中心に入浴支援や清拭対応により清潔保持に努めている。浴室は清潔に管理され、湯船に浸かる方や身体状況に応じシャワーを使用し、安全で寛げる入浴支援に努めている。職員と一緒に着替えを選ぶ方や入浴を楽しみにされている方は決まった時間を要望されており、可能な限り対応している。菖蒲や柚子を使った季節湯は全員が入れるよう2～3日準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作ることで夜間の安眠につなげている。また、足の浮腫が見られる方、長時間椅子に座られている方に関してはベッドで休息する時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報提供書をファイルし、その都度目的や副作用を確認できるように努めている。内服薬に変更があった場合は申し送り(職員連絡ノートや日々の申し送りにて)を行い、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かせるような役割(天気やニュースについての情報を話して頂いたり、イベント時の乾杯の挨拶、カラオケでの盛り上げ役、花生け等)を日々の生活の中に取り入れる様にしている。楽しみごとに関しては、好きな歌手のコンサート映像、写真集の用意、ビール、ご家族からの差し入れの提供をするなどして支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻度は多くは無いが、天気の良い日などは、ドライブや施設周辺の散歩にお連れするなどして気分転換を図った。(八千代座見学、お墓参り、マクドナルドへの買い物、コスモス畑、あじさい見学、郵便局へご家族へのはがきの投函)	コロナ禍で入居者の希望に応じることが難しかったが、現在は個別支援による外出支援が多く実施されている。法人内別事業所におられる家族との面会や墓参、会話の中から把握した山登り体験を生かし、阿蘇(西原村)展望所から山々を望む支援も行われている。また、地域商店での買い物や郵便局に郵便物の投函も支援されている。その際は窓口の局員とのやり取りも楽しみの一つである。庭先のデッキは入居者が日光浴などをする場所でもあり、訪問当日も手際よく落ち葉拾いに取り組む職員の姿が見られた。	季節の花見物や地域資源を活用しファストフード店の利用、重要文化財見学などドライブを兼ね出かけている。以前登山を趣味にされていた方に今後はユーチューブなどを活用し、国内外の山々での登山を見て楽しんでもらうなど良いと思われる。また、個別支援の際は家族にも協力を呼び掛けることで入居者本人も喜びが増すものと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な利用者については職員管理とするが、病院受診等の際には、本人の理解と同意を得る働きかけを心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話が出来るような支援をしている。(携帯電話の操作、取り次ぎ、ご家族が入所中の他部署との連携、固定電話にかかってきた時は電話機の近くに椅子を用意するなどの環境作り。) 必要時には手紙の代筆や代読も行っている。ご家族へ絵手紙を送ったり、入院中の奥様への手紙を代筆した事もあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりを感じることが出来るような空間設計をしている。季節の花を利用者に活けて頂きテーブルに飾ったり、天井や壁面にはその季節のつるし飾りや壁紙を作成し飾っている。又、好きな音楽やオルゴールなどのゆったりした音楽を流し、くつろげる空間作りに努めている。気温に応じ、随時施設内の温度・湿度調整を行っている。目の不自由な方の為に日中でも廊下は常に電気をつけて明るくしている。	ホーム内は壁面制作を得意とする職員を中心に季節の飾り付けや作品などが掲示されている。庭先のウッドデッキに下げられた干し柿や花苗からも季節を感じることが出来る。パンジーの苗植えでは男性入居者も「おもしろかですな〜！」と言いながら手伝われたようである。職員は感染症の徹底を継続しており、掃除や換気、温湿度調整に努める他、席の配置は相性なども考慮し穏やかに過ごせるよう配慮している。	「季節の言葉を書いてみてください！」の職員の声掛けに書かれた入居者の書の作品がリビングに掲示されている。「ゆき」「しもばしら」「駅伝」「うらじろ」「干し柿」など個々の楽しみや思い出などが窺える作品である。今後は家族を含め運営推進会議のメンバーなどホームに足を運んでもらい見学の機会を持たれることで入居者の励みにつながるものと思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や活動時は利用者の関係性を考慮して、テーブルの席を配置している。利用者によっては、場所を移動して一人で落ち着いて過ごす時間ができるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、本人が生活しやすいように本人の希望に添った家具・物の配置、安全に過ごせる様、家具の配置を考えたりしている。(家族の写真、本人の好きな力士の写真、ご家族からの手紙の掲示、塗り絵などの本人の作品、季節の飾り物、本人の希望にてあまり飾らない)本人やご家族の希望に応じてテレビを持ち込んで頂いて好きな時に視聴できるように支援している。	入居の際必要なものを一覧表にし説明する他、使い慣れた品の持ち込みを依頼している。居室入り口には本人の名前と写真、手作りの額縁がかけられており職員の工夫が窺える。アルバムや力士の写真、塗り絵など本人の作品や男性入居者の部屋には手作り矢端が贈られていた。テレビの持ち込みもあり、相撲や野球などのスポーツ番組やニュース、歌番組などを好まれるようである。トイレやクロゼットが備わっており、クロゼットには排せつ用品も収納できプライバシーに配慮されている。	ホームは家族の面会時に居室でゆっくり過ごしてもらえよう、必要に応じて椅子を用意している。天候の良い日は寝具干しにより気持ちよく安眠できるよう支援していることなども家族へ伝えることで安心につながると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子、歩行器、シルバーカーで移動される方にも動線上に邪魔になるものが無いよう、常に気を配っている。トイレで立ちやすいように手すりに滑り止めの設置、立つ位置がわかりやすい様、床にテープを貼るなどの工夫も行っている。(ベッドサイドに小さいゴミ箱の設置、夜間の水筒の用意、目の不自由な利用者には一人でトイレまで移動出来る様、椅子などのセット)		